

きんもくせい

「木を見て 森を見ず」

静岡県養護教諭研究会 幹事 山村恵美子

子どもの保健室への来室は突然です。泣きじゃくりながら付き添われて来室する子、不安そうな面持ちで来室する子、時には怒りをあらわにして来室する子等、子ども達は様々な理由で保健室にやってきます。来室時の子どもの様子を瞬時に判断し、言葉掛けをするなかで、自分の体や心と向き合わせ、自己管理・自己決定できるよう支援しながら対応しています。わずかな時間ですが、子どもとのやりとりから、家庭での生活の様子や友だちとの関係性が見えてくることがあります。来室した時こそがチャンスと思い、子どもの心に寄り添い、関係職員と連携しながら、丁寧な対応を心掛けています。

さて、本校校長の指導に「木を見て 森を見ず」という諺があります。これは「物事の一部に気をとられて、全体を見失うことがないように」ということです。保健室に来室する児童の対応に置き換えてみると、

- ① 全身症状（顔色、発汗、四肢の状態、けがの有無等）観察
- ② バイタルサイン（体温、脈拍、呼吸、血圧等）測定
- ③ 生活習慣（睡眠、食事、排便等）、最近の健康状態、受診の有無、家族の罹患状況等の問診
- ④ 家庭環境や学校生活の様子等



その子を取り巻くあらゆる側面から情報を収集し、それらをもとに、総合的な視点でアセスメントし、対応を判断するということになります。これは偏った見方や決めつけによる誤った判断を避けるためにも大切にしたいことです。

養護教諭が全校の子ども達の健康状態を把握し、学校保健活動を推進していくうえで「木を見て 森を見ず」という視点で物事を考えていくことは重要なことです。笑顔あふれる子ども達の姿がたくさん見られることを願って、日々子ども達とかかわっていきたいと思います。

実践事例集14 「保健室からの情報発信 ～伝える方法と伝わる工夫～」発刊



監修の鎌塚先生、事例提供者の皆さん、そして、苦勞を重ね、形として作り上げた編集委員の思いがいっぱい詰まった事例集がお手元に届きましたか？

養護教諭の立場から、児童生徒、教職員、保護者に伝えたいことがあるときに、是非、開いて活用してください。手放せない1冊がまた増えました(^_^)

★表の表紙絵と裏表紙の絵には違うところが3カ所あります。見つけてみてください！！

かわいいパラパラマンガにもご注目を！！

「健康生活のためのルーティン」

静岡県養護教諭研究会 幹事 鈴木章代



ラグビーワールドカップでの日本代表チームの活躍により、日本中でラグビー人気が高まっています。体重が2倍くらいありそうな外国人選手に、体格の小さな日本人選手が、果敢に立ち向かっていく姿に感動し、勇気をもらいました。

磐田市では、ラグビーのヤマハ発動機ジュビロやサッカーのジュビロ磐田のホームタウン推進事業のひとつとして、選手が小学校を巡回訪問する活動が行われています。子ども達は選手と触れ合うことで、あこがれを強くし、ラグビーやサッカーの楽しさを実感することができます。また、スポーツへの関心が高まったり、郷土を愛する気持ちも芽生えたりするような大変有意義な体験になっています。

さて、今年の流行語大賞にノミネートされている「五郎丸ポーズ」。これは、「ルーティン」とも言われている一連の動作です。同じように、私達の生活のなかにも様々なルーティンがあります。「早寝早起き朝ごはん」は、健康生活にとって重要なルーティンと言えるでしょう。

神明中学校区では、生活リズムの乱れを校区の健康課題と捉え、「早寝早起き朝ごはん」をテーマに、小中3校の養護教諭が連携して共通の取り組みをしています。また、磐田市としても、各中学校区全体を「学府」として小中一貫教育を推進することを目指しており、「学府」の教育構想にも沿った実践を積むためにも、養護教諭以外の教職員とも連携を深め、新たな実践を展開していこうとしています。

一人職の養護教諭の一人一人の力は小さいかもしれませんが、学校職員と共に、そして養護教諭の仲間と共に、がっちりスクラムを組んで取り組むことによって、大きな成果が生まれることなのでしょう。日本のお家芸である「組織力」を大いに活用して、子ども達の健やかな成長のために、いろいろなことにトライしていきたいと思います。



地区紹介

三島地区

三島市では、本年度の研修テーマを「執務の効率化」～執務の向上を目指して～とし、「保健データ管理」「保健管理」「保健学習」「啓発活動」の4つに分かれてグループ研修を進めています。

夏には全体研修を行い、教師グループ「すりっぱ」による講話「スキルラダーでスキルアップ」を実施しました。執務のスキルチェックやグループディスカッションの後、「スクールヘルスアセスメント」の講義を受け、充実した研修になりました。



また、平成5年度より三島地区保健だより「生きる」の発行を続けています（年2回：10月・1月）。児童生徒、保護者へ知識の普及と啓発を目的に、子どもを取り巻く環境や社会の変化に応じた健康課題をとらえ、その時々合ったテーマを設定し、小グループでお便りと掲示物の原稿を作成しています。